

インド

健康な森、健康な人々、気候変動プロジェクト

西ガーツ北部の生物多様性保全と持続可能な生計支援

現地からのお便り

2018年8月

Applied Environmental Research Foundation (AERF)

コンサベーション・インターナショナル

* 本プロジェクトは、インドの地元 NGO である Applied Environmental Research Foundation (AERF) が実施します。

保全契約に向けたコミュニティとのミーティング

AERF チームは、保全契約のアプローチを拡大し、コミュニティ保有林での森林減少を抑えるために、7つの村（Kalambaste 村、Angawali 村、Anaderi 村、Devade 村、Bamnoli 村、Devale- Kinjale 村、Kulye 村）で意識向上のためのミーティングを行いました。これらのミーティングの重要な成果として、Kalambaste 村の地元のコミュニティが、今後 10 年間にわたって 503 エーカーのコミュニティ保有林を守る保全契約を結ぶことを決定したことが挙げられます。さらに、Devade 村の村民が 102 エーカーの私有林で、Anaderi 村の村民が 40 エーカーの森林で保全契約を結ぶことを決めました。Anaderi 村の村民が調理に改良型かまどを採用することにしたことで、森林への開発圧力を減らすことができます。



Kalambaste 村、Angawali 村、Anaderi 村でのミーティングの様子

燃料の使用状況に関する調査の実施と、バイオマスを使ったかまどの実演と配布

AERF チームはこの四半期に、5 つの村で、燃料の使用状況に関する調査とバイオマスを使ったかまどの実演を行いました。生態学的に重要な地域にある2つの村を、調査対象地に選んでいます。この2村（Washi Tarf Sangameshwar 村、Angawali 村）には、27 集落、850 世帯が住んでいます。そのうち170 世帯について、燃料使用データを収集することができました。また、4 村で5 回のバイオマスを使ったかまどの実演を行いました。Washi 村の67%の世帯が、燃料需要を満たすために主に薪を使っています。これらの村々には、次の四半期にバイオマスを使ったかまどを配布する予定です。



AERF の現地チームが Washi 村でエネルギー使用状況の調査を行う様子

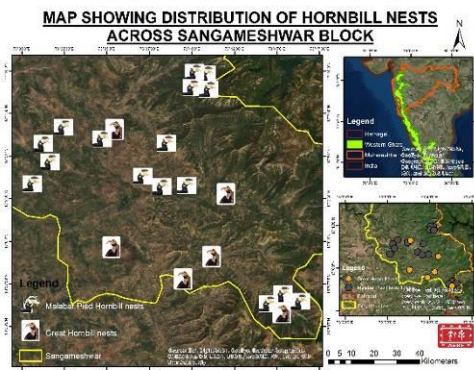


AERF の現地チームによる Vighravali 村でのバイオマスを使ったかまどの実演

サイチョウの保全に関する調査

私達は Sangameshwar 地区で、オオサイチョウとカササギサイチョウの保全状況を把握するために、広範囲に及ぶ調査を行いました。サイチョウは森林の農民と呼ばれています。サイチョウが多く、珍しい固有樹種の種をばらまくことで、西ガーツ山脈北部のばらばらに欠けてしまっている森林において、生態学的な完全性を保つことができます。私達は、合計

22カ所で2種類のサイチョウの営巣活動を確認しました。今も使われている巣の多さは、サイチョウにとって十分な食料があることを示しており、そのことから森林の健全性が分かります。プロジェクト活動地における森林保全に希望を持てるのには理由があるのです。



サイチョウの分布図と営巣地の近くにいるオオサイチョウ

自生種の苗床と回復に向けた植林

今シーズンに予定している森林回復に向けた活動のために、西ガーツ山脈に自生し、珍しく、固有で、絶滅の恐れがある樹種の苗床を作りました。今年5,000本の苗木を育てることを目標としています。この活動を通して、地元の関係者の間で自生種の重要性についての認識を広めようとしています。2,000本のマラバルキノカリン (*Pterocarpus marsupium*)、ジャックフルーツ (*Artocarpus heterophyllus*)、セイタカミロバラン (*Terminalia bellirica*)、クロヨナ (*Pongamia pinnata*)、センダン科の樹種 (*Melia dubia*)、アルジュナ (*Terminalia arjuna*)、サンショウの仲間 (*Zanthoxylum rhesa*) の苗木を既に育てました。6月に苗木を植えることで、Kosumbの聖なる森の空き地での植林を開始しました。





Devrukh 村に作られた自生種の苗床と、Kosumb の聖なる森での植林活動

FAIRWILD 認証及び有機認証と輸出

AERF チームは 4 年連続して、国際的な FAIRWILD 認証と有機認証の要件を成功裏に満たすことができました。両方の認証がこの四半期に行われ、有機認証は 6 月の第 2 週に発行されました。私達は 1,200 キログラムの認証を受けたビヒタキの殻をインドのバイヤーである Phalada Agro 社に販売するとともに、100 キログラムの認証を受けたビヒタキの殻をイギリスの Pukka Herbs 社に直接輸出しました。これをもって、AERF が設立した Nature Connect India Pvt.Ltd.社は、南アジアから FAIRWILD 認証を受けた産品をヨーロッパに輸出した第 1 号の社会的企業になりました。



Devrukh 村の加工施設の前に立つ FAIRWILD 認証の監査員である Mr. Elvedin と、発送の準備ができた製品と AERF チーム



AERF の現地とオフィスのチームによって発送の準備ができた輸出品

エピソード

持続可能な収集と企業の設立を通じた保全のアプローチは、現場でインパクトを生み出し始めました。AERF チームは、企業と保全活動が手と手を取り合って協力していけるというメッセージを広めるために、地元の職人とともにオオサイチョウのお土産を作っています。地元の職人は、木を削って 50 程度のサイチョウの見本を作りました。これらは、プロジェクトの活動を記載した壁掛けになっています。この壁掛けは、人々から素晴らしい反応を受けています。



地元の職人が作った、木でできたオオサイチョウの彫刻

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。